

デザインアートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	3	0	授業回数の3分の2	0
教科書		副教材等		
国語表現 改訂版 (大修館書店)		国語表現基礎練習ノート (大修館書店)		
学 習 目 標				
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、他者とのかわりの中で伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を伸ばすことで言語感覚を磨き、実社会の充実を図る。				
学 習 内 容				
(1)「書いて伝える」 (2)「小論文・レポート入門」 (3)「メディアを駆使する」 (4)「会話・議論・発表」 (5)「声とコミュニケーション」 (6)「自己PRと面接」				
学 習 方 法				
〈授業〉 毎時間の学習内容に関連したプリントを授業で配布します。特性上、単元によっては活動的なことを行います。毎時間授業に参加し、課題プリントや活動に真剣に取り組んでください。また、小論文なども扱うため、文章で表現する課題も多くありますので、思いや考えを文章化できるように毎時間取り組んでいきましょう。				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
レポートの評価、授業への取り組み、課題プリントなどの提出物、副教材への取り組みを総合的に評価します。				
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
伝え合う力、思考力、想像力を高めるとともに、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め国語を尊重しようとする。	状況に応じた話題を選んで説明したり、課題に応じた内容をまとめて報告や発表をしたりして自分の考えをまとめている。	相手や目的に応じて文体や語句を工夫し、適切な表現を考え、根拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる	幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたりの見方、感じ方、考え方が深まったりする。	感じ、語句の意味、用法、文章の組み立てなどについて理解し、知識として身につけている。
担 当 者 よ り 一 言				
活動などを通じて自己を知ったり、物事の対する理解や知識が深まったりします。自己を表現することや順序立てられた文章の組み立て方なども学習します。積極的に授業に参加してください。活動の内容によっては苦手意識をもつかもかもしれません。しかし、実社会において必要不可欠な要素も含まれますので、きちんと向き合ってほしいと思います。また、授業中の課題や提出物にはきちんと取り組み、期限内に提出できるように計画的に行ってください。				

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	3			4
教科書		副教材等		
精選現代文B（東京書籍）		「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版）、「基礎からの総合トレーニング 現代文2 習得STEP編」（ランズ）、大学入試国語頻出問題 1200—四訂版—（いいずな書店）、大学入試現代文単語 Vocabulary550（いいずな書店）		
学 習 目 標				
近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学 習 内 容				
<p>【前期】教科書P8～83を学習。学習の中心は以下の通り。 「ミロのヴィーナス」「山月記」「相手依存の自己規定」「永訣の朝」「牡丹花は一短歌抄」「プラタナス—俳句抄」</p> <p>【後期】教科書P84～220を学習。学習の中心は以下の通り。 『『である』ことと『する』こと』『ころ』『日本人の美意識』『藤野先生』</p>				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を丁寧に読む。毎回の授業ノートをとる。 ・わからない読み・語句の意味は授業時に明らかにする。読解困難な部分については、授業時に質問して明らかにする。 ・活動の際には積極的に参加する。 ・教科書、授業ノート、授業内配布物等を活用して、週末課題等の授業外課題に取り組み、期限内に提出する。 ・考査で得点できるように復習する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
以下の観点を踏まえて、授業への取り組み（授業態度・学習活動への参加状況）、提出物の提出状況、授業内小テスト、定期考査、出席の状況などから総合的に判断し、評価する。				
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているか。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。	文章を的確に読みとったり、目的に応じてさまざまな文章を幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。	伝統的な言語文化、言葉の特徴やきまり、漢字などについて基礎的な知識が身についているか。
担 当 者 よ り 一 言				
現代文Bはまず教科書の本文をよく読むことが求められます。読むことを通してそれぞれの作品とじっくり向き合ひましょう。難解なものもありますが、我慢強く読解することによって、さまざまな価値観に触れ、自分自身の考えを広げることができます。単位修得のために実行してほしいことは前述のとおりですが、それとは別に、教科書はすばらしい文学作品集ですので、ぜひ忘れられない一作品に出会ってほしいと思います。				

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2			4
教科書		副教材等		
日本史A 現代からの歴史（東京書籍）		日本史A ワークノート（東京書籍） 新詳日本史（浜島書店）		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学「歴史」での学習の復習もしながら、日本の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき、地理的 条件や世界の歴史と関連づけて、現代につながる生きた歴史を学習する。 ・ 日本史の学習を通して、将来の日本を担う国民としてふさわしい歴史的教養を身につけ、主体的 に生きる日本人としての自覚と資質を育てる。 				
学 習 内 容				
【前期】 ○教科書は、P 2 4～1 6 7までを学習。 ○学習の中心は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの時代と歴史 <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちと歴史の結びつき ・ 近代日本の形成 <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際情勢の変化と明治維新 ・ 東アジア世界の変動と日本 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日清戦争と近代社会の確立 2. 日露戦争と帝国日本の形成 		【後期】 ○教科書はP 1 7 2～2 3 3までを学習。 ○学習の中心は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界戦争と平和 ・ 三つの世界と日本の動向 ・ 地球社会への歩みと課題 ・ 持続可能な社会への展望 		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の説明を聞く。理解が困難な部分については、授業時等に質問して明らかにする。 ・ 教科書本文を丁寧に読む。副教材を利用する。 ・ テーマを設定し、調べ、まとめ、発表・聞き取り・質問し、自己・他者評価する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
考査の成績、授業態度を総合的に判断して評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の近現代の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
担 当 者 よ り 一 言				
先行き不透明な社会を生き抜く力を身に付けます。自分自身と結びつけながら学んでください。				

デザイン・アートコース

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2	-	48	2
教科書		副教材等		
高等学校改訂新生物基礎（第一学習社）		改訂ネオパルノート生物基礎（第一学習社）		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 ・細胞の働きおよびDNAの構造と機能の概要、生物には体内環境を維持する仕組みがあること、生態系の成り立ちを理解させる。 				
学 習 内 容				
(1) 生物の特徴（前期中間考査） (2) 遺伝子とその働き（前期期末考査） (3) 体内環境と恒常性（後期中間考査） (4) 植生の多様性と生態系（後期期末考査）				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業 教科書に沿って、説明します。 副教材で要点整理や、問題演習を行います。プリント問題も行います。 ・試験 副教材やプリントから中心に出題します。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は次の観点を踏まえ、プリントの評価、授業の出席状況、試験の成績などを総合して評価します。 				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
担 当 者 よ り 一 言				
生物や生命現象について学習します。プリントや副教材などでわからないところは、積極的に質問してください。				

令和3年度 教科シラバス（デザインアートコース）

教科	保健体育	科目	保健(2年次)
単位数	1単位	レポート	無し
教科書	・現代高等保健体育 改訂版	副教材	・現代高等保健体育ノート 改訂版

学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。

学習内容

前期（4～9月）	後期（10～2月）
2 単元 障害を通じる健康 教科書 p 64～p 88	3 単元 社会生活と健康 教科書 p 90～109

学習方法

- ・教科書本文を丁寧に読む。
- ・毎時間の授業ノートを取り、授業に参加をする。
- ・教科書、授業ノート、配布物を活用して、課題に取り組む。
- ・自己の生活と照らし合わせて、自分の人生に役立てる。

評価方法

・授業への参加状況（関心・意欲・態度）、課題の提出状況、考査の成績（知識・理解）を総合的に判断して評価する。

コース デザインアート（2学年）

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	4	/	94	4
教科書		副教材等		
MY WAY English Communication Ⅱ New Edition（三省堂）		MY WAY English Communication Ⅱ New Edition ワークブック STANDARD(三省堂) EG3000 英単語・熟語(いいずな書店)		
学 習 目 標				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学 習 内 容				
<前期>（4月～9月） ・ Lesson 1～Lesson 5 本文 文型、形式主語・形式目的語、知覚動詞、 使役動詞、関係代名詞、関係副詞		<後期>（10月～2月） ・ Lesson 6～Lesson 10 本文 完了形、進行形、助動詞、仮定法、分詞構文 倒置、省略、強調構文		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を聞いたり読んだりして内容を理解します。 ・ 単語の意味の確認、発音練習、本文の音読練習を行います。 ・ 文法の要点をノートにまとめ、練習問題を解き、自己表現文を書きます。 ・ 各課のまとめとして、単語の小テストを行います。 ・ EG3000 英単語集を使って、模擬試験対策を行います。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
以下の観点を踏まえ、授業への取り組み（学習への積極的な参加、ノート記述状況など）、定期考査、課題テスト、小テスト、課題提出状況などから総合的に評価します。				
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解	
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションをはかろうとする。	外国語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えている。	外国語で聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化なども理解している。	
担 当 者 よ り 一 言				
外国語を身につけるには毎日の積み重ねが大切です。授業への積極的な取り組みに加えて、家庭学習の習慣を身につけることが、学力向上につながります。予習復習、課題や小テストへの学習を継続して行いましょう。わからないことがあったら、遠慮なく質問してください。				

コース デザインアート（2学年）

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	2	/	47	4
教科書		副教材等		
be English Expression Ⅱ (いいずな書店)		be English Expression Ⅱ Workbook Orange-標準編- (いいずな書店)		
学 習 目 標				
英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。				
学 習 内 容				
<前期>（4月～9月） ・ Lesson 1～Lesson 12 夢・将来(時の表し方)、文化・行事(5文型)、 ペット(助動詞)、情報と社会(名詞)、 世界の人々(代名詞)、利便性・幸福(形容詞)、 活動(関係詞節)、社会的習慣(副詞)、思い出(副詞句節)		<前期>（10月～2月） ・ Lesson 13～Lesson 21 進路(比較)、想像(仮定法)、教訓(複文)、 コミュニケーション(感覚動詞)、社会問題(認識の表現)、 生活と住居(許可・提案・勧誘・依頼・要望の表現)、 旅行(存在や変化の動詞)、健康(使役動詞)、 興味・関心(無生物主語)		
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の会話を聞いたり読んだりし、内容を理解します。 ・ 文法の説明を聞き要点をノートにまとめ、問題演習をします。 ・ 学習したことを取り入れながら、会話をしたり、テーマに沿ってまとめた英文を書いたりします。 ・ 2つまたは3つの課のまとめとして、教科書 Exercises の小テストを行います。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
以下の観点を踏まえ、授業への取り組み（学習への積極的な参加、ノート記述状況など）、定期考査、課題テスト、小テスト、課題提出状況などから総合的に評価します。				
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
課題に関心を持ち、積極的にコミュニケーションをはかろうとする。	身近なことを話題にしたり書いたりして、考えを適切に伝えている。	身の回りの情報や聞いたり読んだりしたことを正しく理解している。	言語の運用に関する基礎的な知識を身につけているとともに、その背景にある文化も理解している。	
担 当 者 よ り 一 言				
間違いを恐れず積極的に英語を使いましょう。自分の考えなど伝えたい事柄を大切に、伝えるための表現を身につけましょう。				

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
必履修	2			4
教 科 書		副 教 材 等		
ともに生きる・持続可能な未来をつくる(第一学習社)		おとなドリル(教育図書)		
学 習 目 標				
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に関する知識や技術、考え方を身につけ実践して、これからの長い人生を自分らしい充実したものにする。 ・生活の主体者になったときの生活の仕方を考え実践できるようにする。 				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> (1) これからの生き方と家族 (2) 次世代をはぐくむ (3) 充実した生涯・ともに生きる (4) 食べる・装う・住まう (5) 経済生活を営む 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業 教科書に沿って、学習プリント。副教材を利用しながら学習します。レポートの内容に触れながら試験対策を行います。 ・実習・演習(実技) 授業内容に沿った実習・演習を行います。 ・試験 学習プリント、レポート、副教材を中心に出题します。 前期中間：(1)、前期期末：(2)(3)、後期中間：(4)、後期期末：(4)(5) 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
人と人との関係、経済や消費、高齢者の問題、子育て、着ること、食べること、住まうこと、環境問題など多くの視点から考え生活に生かせるようになったか、学習プリントの提出、実習、定期考査、授業態度等で総合的に判断して評価します。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
生活に対する関心を高める態度を身につける	生活の主体者として思考し、判断する	生活の主体者としての生活の仕方を自ら実践し、表現できる	生活に関し多くの視点から考え生活に生かせるようにする。	
担 当 者 よ り 一 言				
私からあなたへお願いすることは、ただ一つ、「自分で考え、行動する」ことです。家庭科の授業は生活に密着しています。あなたの生活はあなたが主人公です。誰もが自分らしい生活をし、そして幸せになりたいのです。そのためには自分らしさとは何か、自分らしい生活とは何か、どう生きていけばいいのか大いに悩み、迷い、価値観を確立していかなければなりません。そのために必要なことを家庭科の授業を通して学び習得してください。学習内容でわからないところは積極的に質問してください。				

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	2		22	
教科書		副教材等		
高校生の美術1		デッサンの基本		
学 習 目 標				
<p>(1) 造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力などを育成する。</p> <p>(3) 造形感覚を高めようとする態度を養う。</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・形体と色彩の性質や機能について理解を深め、変化と統一の構成ができるようにする。 ・材質に触れ、加工したりする体験を通して表現の可能性を追求し、材料や用具を活用して表現効果を高めようとする態度を養う。 ・構成の美しさを考えながら美的秩序を意図した思考力や判断力などを育成する。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシートなどを活用する。 ・実技の授業に参加し、活動を通して内容の理解を深める。 ・分からないところは質問したりして明らかにする。 ・先生の話や配布物を確認し、期限を守って作品を完成させ提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品や提出物などで総合的に判断し評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<ul style="list-style-type: none"> ・美術文化や表現技法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・粘り強く制作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージを膨らませたり、構想を練ったり、計画的に取り組んでいる。 ・表現する際に、適したタッチや構図を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の持つ構造や特徴を捉え、造形するための基礎的な技能を習得している。 ・学んだ技法や技術を表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや作品について言葉で説明できる。 ・構成の基礎的な知識を理解している。 	
担 当 者 よ り 一 言				
<p>造形や表現において必要な基礎的なことを学びます。</p> <p>大学受験においても必要になるのでしっかりと学習しましょう。</p>				

履修区分	単位数	レポート回数	最低出席回数	試験回数
選択	3		33	
教科書		副教材等		
高校生の美術1		デッサンの基本		
学 習 目 標				
<p>(1) 各領域の表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能身に付けるようにする。</p> <p>(2) 各領域の表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力などを育成する。</p> <p>(3) 各領域の可能性を追求する態度を養う。</p> <p>(4) 各種公募展への出品を積極的に行う</p>				
学 習 内 容				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画・彫刻などの各領域についてファインアートに特化した各領域の専門性について学習する。 ・ 生徒が主体的で対話的な深い学びの実現となるよう作品を制作する。 ・ 彫塑・立体造形を中心に学習します。また、平面の作品として水彩絵の具や油絵具を使用し、一人一人の独創的な表現に取り組みます。 				
学 習 方 法				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書や資料などを活用する。 ・ 実技の授業に参加し、活動を通して内容の理解を深める。 ・ 分からないところは質問したりして明らかにする。 ・ 先生の話や配布物を確認し、期限を守って作品を完成させ提出する。 				
評 価 基 準 と 評 価 方 法				
出席、授業態度、作品や提出物などで総合的に判断し評価する。				
関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 美術文化や表現技法に関心を持ち、制作や鑑賞に主体的に取り組んでいる。 ・ 粘り強く制作に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージを膨らませたり、構想を練ったり、計画的に取り組んでいる。 ・ 表現する際に、適した道具や表現技法を選ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の持つ造形的なよさを捉え、制作するための基礎的な技能を習得している。 ・ 学んだ技法や技術を表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イメージや作品について言葉で説明できる。 ・ 美術などの基礎的な知識を理解している。 	
担 当 者 よ り 一 言				
<p>造形や表現において必要なことを学びます。例えば、最初の取り組み段階としてデッサンを重視することに気づかせます。</p> <p>大学受験においても必要になるのでしっかりと学習しましょう。</p>				